

『ガンゴットリー国縁起譚』第1章和訳

沼田一郎

はじめに

ガンガーは北インド・ウッタラーンチャル州にその源流を発している。ガルワールヒマラヤに属する「バギーラティー (Bhagīrathī) 連山」「シヴァリンガ (Śivaliṅga) 峰」⁽¹⁾の麓なる氷河の舌端である「ゴムク (Gomukh)」から発するガンガーは、その10数km下流で北行しているが、それが「ガンゴットリー (Gangā[^]uttari)」なる地名の由来である。筆者は別稿でガンゴットリー (以下G) についての簡単な紹介と、当地で入手した『ガンゴットリー国縁起譚 (Gaṅgottarīkṣetramāhātmyam)』 (以下GM) 第1章の試訳を部分的に公表したが、本稿で改めて邦訳を公表する。

Gについては、すでに別稿で紹介したが⁽²⁾、その要点は以下のごとくである。Gはバギーラティー王の苦行の結果、ガンガーが天上から下降したという伝説に伝えられるまさにその場所として信仰を集め、シヴァ神信仰のセンターとして、数多くの在家の巡礼や出家遊行者の訪れる地である。今日の源流は上述のように更に上流のGomukhであるが、以前には氷河の舌端がこの地まで達していたのであるといわれている。

Gに存在するGaṅgottarī MandirはGaṅgā女神を本尊とし、その境内には諸神格を祀る祠が並び立つ。バラモンたちは、これら諸神格を供養する朝夕の勤行をはじめとする日々のスケジュールをこなす一方、参拝者に対する祈祷・灌頂の諸儀礼を執り行う⁽³⁾。

テキストについて

本稿で紹介するGMのテキストは、G寺院近くの書店において冊子形で販売されていたものである。この小冊子には “Gaṅgottarī-gomukh

mahātm aur yātrā gaṅgā stotra va sahasranām sahit”なる表題のもとに、以下のような資料（いずれもサンスクリットで書かれている）が収録されている。

1. *Śrī Gaṅgotarikṣetramāhātmyam*
2. *Śrī Gomukhīyātrā*
3. *Śrī Gaṅgāstotram*
4. *Śrī Gaṅgāśahasramāmastotram*

また、ウッタラーカンド地方にある4大聖地（Gaṅgotrī, Yamnotrī, Kedārṇāth, Badrīnāth）、並びにその周辺のポイントについてのヒンディー語による解説を巻末に掲載している。

今回取りあげる1のGMは全2章からなり、韻律は全文Ślokaが用いられている。なおテキストには誤植や脱字、あるいは代用アヌスヴァーラがしばしば見られるが、これらについてはいちいち断らずに正規形に修正した。

和 訳

śrīgaṅgotarikṣetramāhātmyam

神聖なるガンゴートリー地方の縁起譚

prathamah khaṇḍah

第1部

nārada uvāca /

brahmaloke mahāgoṣṭhyāṃ brahmaṇā cānyadaivataiḥ/

munibhiḥ sanakādyais ca maṇḍitāyāṃ mahātmabhiḥ//1//

梵天とその他の諸神格、偉大な精神を持つサナカなどの仙人の集まる梵天世界の大きいなる集会において。

gāyan gāyaṃś ca māhātmyaṃ gaṅgotaryāḥ suśobhanam /

ājagāmaikadākasmād devarṣir nārado muniḥ //2//

ガンゴットリーの素晴らしい縁起譚を歌いながら、ある時どこからともなく、神仙ナーラダがやって来た。

vipañcisusvarais tasyā mähātmyaṃ kīrtayan muhuḥ /
bhaktitaḥ sa munisreṣṭhaḥ praṇanāma caturmukham //3//

ヴィパンチーの妙なる音色とともに、その[地の]縁起譚を徐に歌いつつ、そのムニの最上なる者（ナーラダ）は、仰の故に4面の者（梵天）に敬礼した。

brahmovāca

kiṃ kiṃ kathaya bhadrāṃ ta āsyatām atra vai mune /
dr̥ṣṭho 'si bahukālena kutra kutrā ṭitaṃ tvayā //4//

梵天は言った。

さて、めでたきことを語られよ。ムニよ、ここに座られよ。
汝は長い間知られていた。汝はどこを經巡っていたのか。

nārada uvāca /

lokeṣu tatra tatra ahaṃ paryaṭann antato abhyagām /
gaṅgottariṃ himagirer haimam astakasaṃsthitām //5//

ナーラダは言った。

諸世界のあちこちを經巡って、ついに私はやって来たのである。
雪山の黄金にして、永遠に存在するガンゴットリーへと。

divyavṛkṣavanācchannāṃ divyapuṣpavisobhitām /
divyanādair vihaṃgānāṃ sarvatomukharīkṛtām //6//

神聖なる木々と森とを衣とし、神聖なる花に飾られた、
鳥たちの神聖なる歌声があちこちにこだまするところ。

aho ! viṣṇupadī sākṣād avatīrṇā dyulokataḥ //
ādito yatra martyānām akṣigocaratām gatā //7//

ああ、ガンジスが目の前で、天界より下降したのである。
その時に、はじめて人間たちがその目で見ることとなったのである。

bhagīrathasilā puṇyā vikhyātā yatra rājate /

yasyāṃ sthitvā nṛpaśreṣṭhas tapas cakre sudāruṇam //8//

そこにはよく知られた、めでたき「バギーラタの石」⁽⁴⁾が輝いている。
そこに立って、最高の王は恐ろしい苦行⁽⁵⁾を実行したのである。

gaṅgāyāṃ tatra vai snātvā saṃpūjya ca saridvarām /

bhaktiā nāmasahasreṇa tuṣṭāva ca punaḥ punaḥ //9//

そこで、そのガンガーで沐浴して、最高の河に供養して、
信仰によって、その名を1000回唱えることによって、繰り返し繰り返し
喜ばせたのである。

gaṅgottarāt samutthāya gāyann eva muhur muhuḥ /

māhātmyaṃ tīrthavaryasya samprāpa bhavadantikam //10//

ガンゴットリーから出発して、繰り返し歌いつつ、
素晴らしい聖地の縁起譚を。私はあなたのもとへとやって来ました。

brahmovāca

dhanyo 'si kṛtakṛtyo 'si dhanyo dhanyaḥ punaḥ punaḥ /

yat tvayā sevitaṃ tīrthapuṇyagaṅgottaraṃ mune //11//

梵天は言った。

あなたは素晴らしい、あなたはなすべきことをなし終えている、素
晴らしい、素晴らしい、全く。

あなたはめでたき聖地ガンゴットリーに仕えている、ムニよ。

bhagīratatapaḥsthānaṃ triṣu lokeṣu viśrutam /

idaṃ bhūlokavaikuṇṭham ity jānihi nārada //12//

バギーラタの苦行の場所は、三界において知られている。
これをこの世のヴィシュヌと知れ、ナーラダよ。

bhuktimuktipradaṃ kṣetram anyan nāstīdṛṣaṃ bhuvi /

kalidoṣavimuktaṃ yat sākṣād gagāvihārabūḥ //13//

享受と解脱をもたらすような、このような土地はこの世には他にない。
カリ紀の欠点から解放され、実にガンジス川の遊びの地である。

anekaśatasamkhyākais tatra tatrograliṅgakaiḥ /
anayayaiś ca vividhair devagrahaiḥ samprapūritam //14//
あちらこちらが数百もの妻まじいリングによって、また、そのほかの様々な
神々の分身によって充ち満ちている。

aho bhāgyodayas teṣāṃ ye janāḥ paryupāsate /
mahāpuṇyam idaṃ tīrthaṃ śuddhasattvaguṇodayam //15//
ああ、崇拜する人々の幸福が増すのである。
この大いなる福德を持つ、清浄にして純粋なる性質をいや増す聖地を。

na pāpaṃ na durācāraḥ kauṭilyaṃ kūṭkarma ca /
na dharmadhvajitā yatra na vā duḥkhaṃ mahādbhutam //16//
そこには罪なく、悪しき慣習なく、奸計なく、悪しき行いなく、
ダルマを損なうものもなく、あるいは大いなる未知の苦しみもない。

tāpasānāṃ tapaḥsthānaṃ munināṃ mananālayaḥ /
bhaktānāṃ viraktānāṃ āvāso hṛdayapriyaḥ //17//
苦行者にとっては苦行の場所であり、修行者にとっては冥想の場所であ
る。
欲望のない信仰者にとっては心楽しむべき住処である。

phalamālasamāddhaṃ yad guhāgahvaraśobhitam /
praśāntaikāntagambhīram aho brahmasamādhībhuḥ //18//
花や根に満ちており、洞窟や木立に飾られ
静寂で、全く深い。ああ、清浄なる三昧に相応しい地である。

nārada uvāca
gaṅgotarasya vaiśiṣṭyaṃ kiṃ kasmād āhvayas tathā /
samvṛttas tasya kalyāṇas tan me brūhy ātmanjanmanaḥ //19//

ナーラダは言った。

ガンゴートリーは素晴らしい。その素晴らしい名前は何に因んでのことか、それを私に語られよ。

tāni cāśeṣato brahman śrotum icchāmi te mukhāt /

tvad anyan sarvam etad vai ko vā vetti viśeāataḥ //21//

それを余すところなく、梵天よ。私はあなたの口から聞きたいのである。あなたの他に、誰がその全てを余すところなく知っているというのか。

brahmovāca

sādhu sādhu tvayā pṛṣṭaṃ śṛṇu me vacanaṃ mune /

saṃkṣepataḥ pravakṣyāmi yat pṛṣṭaṃ gopyam uttamam //22//

梵天は言った。

善哉善哉、汝は問うた。私の言葉を聞くがよい、ムニよ。

簡潔に私は述べよう。問われた最高の秘密を。

gaṅgotarasya māhātmyam adbhuṭaṃ romahaṛṣaṇam /

gopaniyaṃ prayatnena daivatānāṃ ca durlabham //23//

ガンゴートリーの縁起譚は、髪も逆立つほど未曾有のものである。

努めて守るべきものであり、神々にとっても得がたいものである。

rājano vāḍavā vaiśyāḥ striyaś ca bahavo antyajāḥ /

kaivalyaṃ kāmitārthāṃś ca lebhire 'sya niṣevaṇāt //24//

王たち、バラモンたち、ヴァイシャたち、女たち、そして多くの下等な生まれの者たちは、解脱と欲望の達成を得たのである、その [ガンゴートリー] への崇拜の故に。

gagopasevanaṃ nānyad bhuktimuktiḥprasiddhaye /

kāleyakāle taddoṣadūṣitālasacetasām //25//

享受と解脱の達成のためには、ガンガーへの奉仕以外に道はない。

カリ紀において、その悪の除去を怠ける心の持ち主にとっては。

gaṅgāyā darśanaṃ puṇyaṃ gaṅgāyām avagāhanam /
gaṅgātīranivāsaś ca gaṅgānāmajapārcanam //26//

ガンガーを見ることはめでたいことである。ガンガーで沐浴することも。
ガンガーの岸辺に住することも。ガンガーの名を唱え拜むことも。

gaṅgāmbhovāyusaṃsparśenāpi pāpaḥ praśuddhyati /
pāpānāṃ pāpamokṣāya kāmasiddhyai ca kāminām //27//

ガンガーの水、風に触れるだけで悪は清められるのである。
悪人にとっては悪からの離脱のために。欲望を持てるものにとっては欲望の達成のために。

ārttānām ārttanāśāya mokṣasiddhyai etadarthinām /
sarveṣāṃ sarvasiddhyai ca gaṅgaiva śaraṇaṃ kalau //28//

苦悩するものにとっては苦悩の消滅のために。解脱を求める者にとっては解脱の成就のために。一切の者にとっては一切の成就のために。ガンガーはカリ紀における避難所である。

brahmaiva paramaṃ sākṣād dravarūpeṇa dhāvati /
pumarthakaraṇārthakī gaṅgeti śubhasaṃjñayā //29//

実に最高ブラフマンは、眼前を河の流れとなって疾走する。
人間の目的を達成することを目的として。ガンガーというめでたい名前で。

ūrddhvam ūrddhvaṃ viṣṇupadyā mähātmyam atiricyate /
tasmād upary eva yāvac chakyaṃ seveta jāhnavīm //30//

さらにさらに、ガンガーの縁起譚は優れているのである。
それ故に、可能な限りガンガーに仕えよ。

uttarākhaṇḍamūrddhā yat sākṣād gaṅgodayālayaḥ /
vaiśiṣṭyaṃ kṣetravaryasya tasya vaktavyam asti kim //31//

ウッタラーカンドの最高地点、まさにそこからガンガーが流れ出るところ、その素晴らしい土地がいかに卓越しているかが語られるべきである
というのか。

gāṅgatā hi tato gaṅgety abhidhānaṃ babhūva ha/
sā gaṅgā bhūmigoccaṇḍākhaṇḍāscaryagatikramā //32//

そこから素早い流れが始まっているので、ガンガーと呼ばれるようになったのである。

かのガンガーは、大地に到達し、素早く、一つのものとなるという素晴らしい順序を持つ。

uttarābhimukhī yatra kṣetre vahati vaiṣṇavī /
tatas tat kṣetram ākhyātaṃ gaṅgottaram iti kṣitau //33//

ガンガーはその地において北 (uttara) を向いて流れるので、それ故にその地は地上ではガンゴットリー (Gaṅgā^{uttari}) と呼ばれているのである。

lakṣikṛtya hi yat kṣetraṃ svargaṅgā svargalokataḥ /
utraty antarikṣādīn tasmād vā tat tathocyate //34//

あるいはまた、その地を目指して、天の世界から天界を流れるガンガーが空界などを流れ落ちてきた、と言うので、それはそのように言われるのである。

uttrāṃśas tu gaṅgāyā yad vā yatra virājate /
tasmān nārada tat kṣetraṃ gaṅgottram iti smṛtam //35//

あるいはまた、そこにおいてガンガーの上流部がわき出ている、それゆえにナーラダ、その地はGと伝えられているのである。

yatra gaṅgā mahābhāgā nānyaḥ paramadevatam /
tad vā gagottaram nāma puṇyadhāma prakirtyate //36//

そこでは幸多きガンガーが最高の神格であり、他のものはそうではなかった。

それでそこがGという名の、めでたき聖地として称えられているのである。

viśeṣeṇa tu yat kṣetre gaṅgottaraṇasādhanam /
bhavāmbudhes tato vā etat kṣetraṃ gaṅgottaram smṛtam //37//

しかるに、とりわけその地において、ガンガーが輪廻の海を渡りきるの
である。

それゆえにまた、その地がGとして伝えられているのである。

sthānāny api ca mukhyāni sevitavyāni mānavai /
śṛṇu putra mahākṣetre tatra tvam śraddhayānvitaḥ //38//

また、人によって崇拜されるべき重要な場所があるのだ。

息子よ、聞け。この大なる国において汝は信仰を具えたものであれ。

bhagīrataśilā yā tu tvayā dr̥ṣṭā ca sevitā /
gaṅgotaryām tu tat sthānaṃ sarvasmād uttamottamam /39//

汝が見て供養した「バギーラタの石」。

Gにおいては、それが何ものよりも優れた場所である。

pañcavar̥ṣasahasrāṇi pañcavar̥ṣaśatāni ca /
atra tepe tapas tīvraṃ jīrṇaparṇāśano nṛpaḥ //40//

5500年もの間、そこで枯れ葉を食べる王が、恐ろしい苦行を修めたので
ある。

tatra evaṃ suciraṃ kālāṃ tapyamānasya bhūpateḥ /
śīmadvar̥ṣmaṇi valmīkaṃ sajātaṃ mahad adbhutam //41//

そこでそのように長い間苦行する王の、神聖なる肉体の上に、これまで
見たことのない大きな美しい蟻があった。

pracaṇḍatapasā tasya saṃtuṣṭo 'haṃ tadagrataḥ /
pratyakṣībhūya bhūpāya varaṃ cātraiva dattavān //42//

彼の凄まじい苦行に、その前で私は満足し、

眼前に姿を現し、そしてそこで王に恩典を与えたのである。

kalīṃdakanyayā sārddhaṃ tatra śrījāhnavī sadā //
nivasaty atra vai gaṅgā pūjyate ca yathāvidhi //43//

ヤムナー河とともに、そのときから聖なるガンガーが永遠にそこに存在するのである。そして、ガンガーは規定に従って供養される。

gaṅgā ca yamunā caiva kanyāyugmaṃ subhāsuraṃ /
nānālaṃkāra sayuktaṃ muktāmaṇi vibūṣhitaṃ //44//

ガンガーとヤムナーは美しく輝く姉妹であり、
それぞれの飾りをよくまとい、宝珠によって飾られていた。

sitāsita śubhāṃgaś ca calatkuṇḍalaśobhitaṃ //
aṃśumatputraputrasya babhūva adhyakṣagocaram //45//

[ガンガーとヤムナーの姉妹はそれぞれ] 白と黒の美しい肢体を持って
流れ、耳飾りに飾られて、アンシュマットの孫（バギーラタ）の見た
ところとなった。

yathā pūrvam tathādyāpi sarvadāpi mahātmanām /
tat pādapaṃkajānanya bhaktānām bhaktaceṭakam //46//

[その姉妹は] かつてそうであったように、今日でも常に、大いなる心
を持つ者にとって、その足と蓮のごとき腰に専一なる信仰を向ける者に
とっての、信仰の奴隷である。

dadāti darśanaṃ tatra puṇyadhāmi na saṃśayaḥ /
dṛṣyate vicarad rūpaṃ devadāru vanāntare //47//

[その姉妹が] ここ、めでたい聖地において姿を現すのである。疑いなく。
Devadāru（松の一種）の森の中で、動く姿が見られる。

karṇālaṃbitatāṭaṃkā kvaṇat kāmci guṇānvitā /
susmitā padmapatrākṣī svarṇasimhāsane sthitā //48//

耳には耳飾りを着け、上質の腰帯を鳴らしつつ、
美しくほほえみ、蓮の葉のような眼を持つ女が黄金の獅子座に立っていた。

anekastrīparivṛtā śvetacchatropaśobhitā /
indrādibhir lokapālair vijyamānā sucāmaraiḥ //49//

多くの女に取り囲まれ、白い傘に飾られて、
インドラなどの世界の守護者に囲まれ、美しい扨子を持ち。

trailokyajanani sāksāt trailokyasyāpi durlabhā /
arkaputryā samaṃ gaṃgā nityam atra virājate //50//
実に三界に生きる者の母にして、三界に生きる者にとってさえ得がたい
ものである。ガンガーはヤムナー河と共にここで常に輝くのである。

aho gaṅgotarītīrthasyāsyā māhātmyam adbhutam /
jāhnavīsadmanaḥ sāksād bhagīratthatapobhuvaḥ //51//
ああ、この聖地ガンゴットリーの縁起譚は未曾有である。
ガンガーの地が目の前にある。バギーラタの苦行の場所も。

atra snātvā tu gaṃgāyām arcayitvā ca jahnujām /
sarvapāpāt pramukto vai martyo 'martyapadaṃ vrajet //52//
そこでガンガーで沐浴して、ガンガーの水で口を漱ぎ、
一切の罪から解放されて、人は不死の境地に行くのである。

pitṛbhyaḥ piṇḍadānādikriyāyāṃ munisattama ! /
tatsthānaṃ śobhanaṃ bhūmau sarvebhyaś ca viśiṣyate //53//
祖霊へのピンダの献供等を執行するに当たっては、ムニの最上者よ。
その場所は素晴らしい。地上での一切のものより優れている。

na kālaniyamas tatra piṇḍadānādikarmasu /
divā vā yadi vā rātrau kriyāṃ kurvīta mānavaḥ //54//
その際ピンダの献供等を執行するに当たっては時間的な規定はない。
日中に、あるいは夜であっても、人は祭祀を執行すべきである。

nāmagotraṃ samuccārya yo dadyāt śrādhm atra vai /
svargaṃ gacchanti pitaras tasya pātakino 'pi vā //55//
名前とゴトラを言って、そこにシュラータを献げる者は、
彼が罪人であったとしても、その祖霊は天界へ至るのである。

havirdānañ ca devebhyo yad atra kurute naraḥ /

viśiṣṭaphaladaṃ viddhi tat ca devamune śṛṇu //56//

人は神々に対してhavisを捧げるべきであるということ、それは優れた果報をもたらすということ、それを知れ、聞け、天的なムニよ。

suvarṇaṃ kaladhautāñ ca gām annaṃ pṛthivīm tathā /

vīprebhyo yat prayacchanti tad atra āśu phaladam //57//

黄金、金銀、そしてウシ、食物、また大地をバラモンに捧げること、それはここで速やかに果報をもたらす。

vārāṇasīgayāgaṅgādvārādibhyo 'pi koṭiṣaḥ /

phalaṃ tatrādhikaṃ vinded dānādīnāṃ na saṃśayaḥ //58//

人はヴァーラーナシー、ガヤー、ハリドワールなどよりも、遙かに優れた果報をここで見いだすであろう。布施などには疑いがない。

kutra gaṅgottarītirthaṃ kutra kāśīgayādaya /

pracaṇḍadyumaṇer agre khadyotaḥ kiṃ prakāśate //59//

ガンゴットリーの聖地はどこにあるのか。カーシー、ガヤーなどはどこか。鋭い太陽光線の前で、蛍は光ることができるであろうか。⁽⁷⁾

kāśyādīni mahātīrthāny ātmaśuddhyai bhajanti hi /

mūrtimanti mahākṣetraṃ divārātram idaṃ mune //60//

姿を現したカーシーなどの大いなる聖地は、自身の清浄のために、この偉大なる地に日夜仕えるのである。

gaurikuṇḍaṃ mahātrithaṃ tatsīlāyās tu pṛṣṭhataḥ /

devagamyāṃ mahāramyaṃ darśanāt pāpanāśanam //61//

その [バギーラタの] 石の後ろには、ガウリークンダという聖地がある。神々に近く、おおいなる歓びに満ち、見るだけで罪が消滅するのである。

kedāragaṅgā kedārasailaśṛṅgā dviniḥsṛtā /

yatra śrījahnusantatyā saṃgatā puṇyadāyini //62//

ケーダール [ナート] の山の頂から、二つながらに流れ出るケーダール
ガンガーは、幸をもたらす者であり、聖なるJahnuの子孫（ガンガー）
と出会ったのである

sudarśanaṃ tatra gaṅgāpāthaḥ prapataṇaṃ mune /
gabhīraninadaṃ nityaṃ mahāścaryaṃ vidhāyakam //63//
そこには素晴らしいガンガーの流れが落ちたのである、ムニよ。
妙な音が常に響き、全く驚くべき様子である。

gaurī sākṣān mahesānī saṃvṛtā hi sakhī janaiḥ /
tatra saṃkrīḍate tasmād garīkuṇḍaṃ nigadyate //64//
ガウリーとは実にパールヴァティー (Mahesānī) であり、友人に囲まれて
いる。彼女はそこで遊ぶ。それゆにガウリークンダと呼ばれているので
ある。

gaurīkāntaś ca viśveśaḥ śaṅkaraḥ pramathādhīpaḥ
svasya bhūtagaṇair yuktas tatra nityaṃ virājate //65//
ガウリーの夫は一切の主であり、シャンカラで、最高の王である。
彼は自らの眷屬を従えて、そこで常に君臨している。

setutarpaṇam etasmin puṇyatīrthe vidhīyate //
tadvidhiṃ saṃpravakṣyāmi śṛṇu me śraddhayānvitāḥ //66//
そのめでたい聖地において提の供養が規定された。
その規定を私は述べよう。聞け、信仰篤き者よ。

nārikelatāniya vālukāḥ setubandhanāt /
abhyarcya vidhivat tatra rudrīpāthādīnā mune //67//
堤から砂がココナツの木を運ぶ。
そこで規定通りに供養して。Rudrīpāṭṭhaなどとともに、ムニよ。

kuṇḍe tatra samarpyate śraddhayā tāpasottamaiḥ /
setutarpaṇam etad vai mahāpuṇyaphaladam //68//

この [ガウリー] クンダにおいて、信仰により苦行者の最上者によって参拝される。この提の供養は実に大いなるめでたき果報をもたらす。

yathoktavidhinā tāta yaḥ kuryāt setutarpaṇam /

niṣkāmaś cet punar janma tasya na syān na saṃśayaH //69//

以上に述べたような規定によって提の供養をなすであろう者は、もし欲望を持たないのであれば、彼は再び生まれることはない。疑いはないであろう。

sakāmaś cet sadyaiva vācchitārtham avāpnuyāt /

dhanyau dhanyaḥ sa martyo yaḥ setuṃ tarpayatīdṛśam //70//

もし欲望を持つならば、直ちに欲せられた対象を獲得するであろう。このような提を供養する人は豊かとなる。

anyat ca kathayiṣyāmi śṛṇu me āradhaya mune /

gaṅgottaryāś ca yo gaṅgātoyam āniya nārada //71//

私は他のことを語ろう。私に聞け、信仰をもって。ムニよ。ガンゴットリーからガンガーの水を引いて。ナーラダよ。

bahir antaḥ śucir nityaṃ śraddhāvān saṃsitavrataḥ /

pādacārī sadācārī pṛthvisāyī tathālpabhuk //72//

内も外も常に清浄で、信仰篤く、行い堅固にして、歩く者であり、正しく行う者であり、大地に横たわり、そしてすこし享受する。

rāmeśvare mahākṣetre rāmacandreṇa yat purā /

sthāpitaṃ śivaligaṃ vai pūjitaṃ sarva devataiḥ //73//

大いなる国、ラーメシュヴァラにおいて、ラーマチャンドラによって、かつて現出せしめられたシヴァリングは一切の神によって供養された。

abhiṣekeṇa tal ligam abhyarcayati mānavaḥ /

vidhivat sa phalaṃ tasya sivasāyujyam ṛcchati //74//

灌頂によってそのリングを供養する人は、規定通りに、その果報としてのシヴァとの合一を得るのである。

yajñabhūḥ paṇḍuputrāṇām umākuṇḍasya pṛṣṭhataḥ /
pāvanī puruṇyāḍhyā darśanād duḥkhanāśinī //75//

ウマー（＝ガウリー）クンダの後ろに、パーンドゥの息子たちの祭祀の場がある。清浄にして、多くの幸に満ちている。見るだけで苦が減するのである。

gotrahatyāsamutpannapāpaśāntyai tu pāṇḍavāḥ /
dvaipāyanājñayābhijñāḥ prāpus tripathagottaram //76//

[同一] ゴートラの殺害が生じたという罪を鎮めるために、パーンドゥの息子たちはドゥヴァイパーヤナの教えを思い出して、ガンゴットリーへやって来た。

tatra gatvā daivayajñāś cātra nirvartito mahān /
yathāvidhānam āstikyabuddhyā dvijasahāyakaiḥ //77//

そこにきて、正しい信仰心によって、バラモンを助けとする者によって、規定通りに神への大規模な祭祀が執行された。

aho ramyam idaṃ sthānaviśālam anupadravam /
mṛtkṣkau tan makhocchiṣṭaṃ bhasma cādypī dṛśyate //78//

ああ、この場所は喜ばしい。広大にして障りが無い。土の中にその祭の残りの灰を今なお目に見ることができる。

ekādaśānāṃ rudāṇārm āvāsoccaśilocayāt /
nipatantiṃ paśya gaṅgā rudrapūrvāṃ samīpātaḥ //79//

11のルドラの住処がある高い岩の固まりのすぐ近くに、ルドラを先とするガンガーを見よ。

viśayāsaṅgicittaṃ vai katham unnatim āpnuyāt /
alpiṣṭa vartmanā mandaṃ rohativādhirohaṇim //80//

対象に浸ってしまった心は、いかにして上昇を得るのか。
あたかも最小の行為によってゆっくりと階段を上るように。

iti sañcintya tīrthānāṃ daivatāñ ca kalpanam /

tatra tatra kṛtaṃ lokagurubhis tattvadarśibhiḥ //81//

と考えて、諸々の聖地の神々へのkalpanaが、そこここにおいて真理を知る世師たちによってなされたのである。

āsevītāni vidhivat sarvāṇi etāni taiḥ svayam /

joṣayadbhir aho lokāṃl lokasaṃgrahakāribhiḥ //82//

その全てが、儀軌通りに彼ら自身によって供養された。

agnikarmasu naṣṭeṣu naṣṭe ca tapasi kṣitau /

katham vā durbalo martyaḥ preyaḥ śreyaś ca sādhatet //83//

火への諸々の祭祀が消え、地上に苦行がなくなったなら、弱き者人間はいかにして愛と栄光を成就するというのか。

niṣkāmaśreyā devyāḥ saṃjātā puṇyasamḥatiḥ /

nibarhayati vai pāpaṃ bahujanmasu saṃcitam //84//

女神ガンガーへの欲望なき奉仕によって幸の集まりが生じ、それは多くの生において蓄えられた罪を滅するのである。

rāgādicittadoṣāś ca kṣiyante tad anantaram /

doṣakṣaye ca bhagavadbhaktir jñānaṃ ca jāyate //85//

その直後に貪欲などの心の悪が減する。

そして悪が減するとき、神への信仰と知が生じるのである。

anayāsenā martyānām anarhāṇāñ ca nārada /

īśabhaktiā ca muktiś ca kṣipram eva prasidhyati //86//

相応しくない人間にも、容易に、ナーラダよ、

神への信仰と解脱が直ちに達成される

sarvatīrthatapoyogasvādhyāyārcanakīrtanaiḥ /

niḥśreyasaphalaṃ mukhyam anyadāpātikam phalam //87//

一切の聖地、苦行へのヨーガ、ヴェーダの学習、供養、讃歌によって、至福が第一の果報である。他の随時現れる果報も [生じる]。

guḍajihvikāyā nūnaṃ bālavan mandabuddhayaḥ /

tat tat phalaiḥ pravartyante tat tat uttamakarmasu //88//

「砂糖の舌」の喩の通り、幼児のように愚かな者たちは、あれこれの果報によって、あれこれの最高の行為を行う。

sarvam āpatāmadhuraṃ aho sāmśārikam phalam /

anityam duḥkhasambhinnaṃ subuddhibhir akāṃkṣitam //89//

輪廻の果報は、全てその場限りのものであり、甘くないものである。無常にして苦に引き裂かれている。正しい理性を持つものは求めない。

tīrthāṇādi sakalam kṛcchrasādhyam sukarma yat /

kaḥ kuryāt kṣaṇikārthānām kṛte mūḍhajanetaraḥ //90//

よき行いというのは、聖地巡礼など、どれも為しがたい。贖罪によって成就する、一切のよき行い

īśvaraprītir evātra puṇyakarmaphalam nṛṇām /

nānyad bhavatu bhavyānām bhavasamkaṭamocanī //91//

神の愛こそが、人間にとって、めでたい行為の結果である。よき人にとっては生存の海から救い出す者であれ、そのほかではなく。

īśvaraḥ sarvajagato bhagavān bhaktavatsalaḥ /

sevyo 'haṃ nanu sāmśārijivas tad upasevakaḥ //92//

一切世界の主にして偉大なる者、信じる者を愛する者は供養されるべきである。何となれば、私は輪廻する者であり、生きている。それを信仰するものである。

iti dvaitadhiyā samyag upakramya āsevanam /
sarvam īśa iti prajñāṃ nirdvatāṃ sādhatet budhaḥ //93//

という疑いのある想いを伴って、正しく主へのsevanaに到り、智者は一切が主であるという疑いのない智慧を成就するのである。

sarvaṃ brahmeti vijñānaṃ sākṣān mokṣa ekasādhanam /
hanta hanteha jantūnāṃ sahasā kasya sidhyati //94//

一切のものがbrahmanであると知ること、そのまま解脱を成就させるのである。見よ、見よ。ここに人々にとって何が起こるといえるのか。

sarvaṃ brahmeti akhaṇḍā dhīr yāvann odeti kutracit /
idaṃ brahmeti buddhir yā sakhaṇḍā sā vidhiyate //95//

一切がbrahmanである、という完全な知がどこにも現れない限りは、これがbrahmanである、という不完全なbuddhiが規定されている。

īśāvāsyam idaṃ sarvaṃ yat kiñ ca sacarācaram /
bahujanma kṛtābhyāsād ity eṣā jāyate matiḥ //96//

この世界の一切は動く者も動かぬ者も、主に遍く満たされている。多くの生を通じてなされたabhyaasaのゆえに。という、このような考えが生じるのである。

dhuniṃ vā grāvamūrti vā sthūlāṃ nopāsituṃ kṣamaḥ /
sūkṣmāt sūkṣmataraṃ tattvam aiśvaraṃ vā smaret katham //97//

河、巨大な石の姿を拜むことはない。
微細な上にもさらに微細なる神の真理を念じるのは何故か。

prakṛtyā sundaraṃ sthānaṃ vastu cāvarjakaṃ prabhoḥ /
darśanārhaṇacintāsu śreṣṭham ālambanaṃ matam //98//

本質的に美しい場所とものは、主の慰めである。
主を見、崇拜し、思考するならば。

nānāviṣayavikṣiptaṃ duṣṭacittaṃ manāg api /

iśvarābhimukhaṃ kuryād iti tīrthādikalpanā //99//

異なるものを対象とする混乱した悪しき心は少しであっても、イーシュヴァラを第一とするものとするべきである、というのが聖地を初めとする規定である。

sākāram iśarūpaṃ yat paroḥṣam iti durgraham /

atimandadhiyāṃ kiñcit pratikatvena kalpayate //100//

美しい(姿を持った)主宰神の形は知られない、知りがたいのである。愚かな知において、何かが象徴によって思念されるのである。

yena kena prakāreṇa viṣvag gāmi dṛḍhaṃ calam /

cittam ekatra saṃrundhyād anukṣaṇavikalpakam //101//

あれこれのやりかたであちこち行く、堅固に、ふらふらと。
心は一所に

asadvṛttiparaṃ cittaṃ kuryāt sadvṛtṭiyatnataḥ /

tato nivṛtṭikaṃ kuryād iti tattvagatikramaḥ //102//

iśvaro vetti viśvātmā sarvāṃ sarvasya bhāvanām /

yādṛśī bhāvanā tādṛk phalañ cāpi prayacchati //103//

一切のアートマンたる主宰神は、一切のものの一切のbhāvanāを知るのである。bhāvanāと同様な果報をもまた与えるのである。

tīrthasevanataḥ kecid rāmakṛṣṇādiyupāsāyā /

japena tapasā cānye prārthanā kīrtanādibhiḥ //104

或ものは聖地へのくようによって、ラーマやクリシュナへの崇拜によって。低唱によって、また苦行によってするものもあり、信者の讃歌などによる

svādhyāyābhyāsataḥ kecid chāstracintākrameṇa ca /

prāṇāyāmena cāpy anye dhyānayogena cāpare //105//

或ものはveda学習への専心により、また或ものは論書から知られる知の次第によって、また或ものは制息によって、また別のものは禪定によって。

karmānuṣṭhānataḥ kecid dānasevādibhiḥ pare /
ittham īśvaram ārādhya niṣkāmaḥ śodhayanti hṛt //106//

或者たちは祭式の執行によって、また他のものは布施や奉仕などによって。このように、主宰神を敬って、欲望無き者たちは心を浄化するのである。

vikalpaśatavikṣiptam aśuddham citam añjasā /
nirvikalpapadopāntaṃ gantum arhet kathaṃ prabhoḥ //107//

100もの念想に満ちて混乱した不浄なる心は直ちに
念想なき段階という終わりへ行くことが相応しいのである。

nirmalaṃ śuddham ekāgraṃ vicāranipuṇaṃ manaḥ /
vetti samyak paraṃ tattvam avāk manas agocaram //108//

その心 (manas) は汚れなく、清浄で、一つところに集中しており、思慮に長けており、言葉や心の対象とはならないような最高の真理をも正しく知るのである。

註

- (1) 北面からはまさにシヴァ神の「リング」を連想させる姿であるが、南面からは双頭状の全く異なった山容を見せる。現地のガイド等によると登ってはならない山とされているが、1974年に登頂されている。
cf. <http://yama-tabi.net/sekai100ym/>
- (2) 沼田一郎「インドの共同体社会と個人の宗教信仰についての実地調査」(東洋大学東洋学研究所プロジェクト『東洋思想における個と共同体の関係の探求(代表者・竹村牧男)』報告書)
- (3) 午前6時のutthāpannaにはじまり、午後9時のśayanāratiに至るまで、合計14種類の勤行が予定されている。また、巡礼者・参拝者に対しては諸種の

abhiṣekaやGagāśahasranāma、Vedapāṭhaなど、多数の儀礼が用意されており、それぞれに料金が定められている。

- (4) 境内にはまさにこの石を祀ったとされる祠がある。
- (5) このバギーラタ王の苦行の結果、ガンガーは地上に下降したとされている。
- (6) 注(3)参照。
- (7) Gの威光の前では他の聖地は霞んでしまうことを太陽光線と蛍の光にたとえているのである。